

代名詞代用表現・呼びかけ表現の通言語学的研究
における共同調査項目検証結果
—タイ語に関して—

A Study Based on A Common Questionnaire for Investigating Pronoun
Substitutes and Address Terms through A Cross-Linguistic Study
-The Case of the Thai Language-

スニサー ウィッタヤーパンヤーノン (齋藤)
Sunisa Wittayapanyanon (Saito)

東京外国語大学世界言語社会教育センター
World Language and Society Education Center,
Tokyo University of Foreign Studies

要旨

本稿は、どういった表現が話し手・聞き手を指示する代名詞代用表現、及び聞き手を発話の伝達先として同定する呼びかけ表現になるか、そして代名詞代用表現と呼びかけ表現の関係性を通言語的に明らかにするため、東アジア・東南アジアの8言語で行った共通調査の中で、タイ語に関する結果と考察を示したものとなる。今回のタイ語の調査結果の中では、呼びかけのみで使用される専用の表現はなく、呼びかけで用いられる表現は必ず対称としても用いられる他、親族名称については、実際の親族への使用と比較し、虚構用法の方が敬称への適用が可能となる表現が多いことなどが明らかになった。

This study analyzes pronoun substitutes, which designate speakers/interlocutors, and address terms, which identify interlocutors as the message receivers, in the Thai language, through a common questionnaire. This study was conducted on eight languages spoken in East Asia and South-East Asia. It evaluates, from a cross-linguistic perspective, the kind of expressions that can be pronoun substitutes and address terms and the relationship between these two kinds of terms.



The results reveal that although there are no expressions only for address terms in Thai, all expressions used as address terms are also used as second-person terms. They also reveal that pseudo-kin terms are used more compared to terms pertaining to true family members; several these terms can be used as titles of people.

キーワード：タイ語、代名詞代用表現、呼びかけ表現

Keywords: Thai Language, Pronoun Substitute, Address Term

はじめに

多くの東アジア・東南アジアの言語では、人称代名詞ではないものの、話し手・聞き手を指示する代名詞代用表現(pronoun substitute)及びそれと関連の深い呼びかけ表現(address term)が広く一般的に用いられており、これらの表現に関する通言語的協同研究(以下、「協同研究」)¹を筆者も含めた8言語²の専門家と自然言語処理の専門家で行っている。協同研究は、個別言語・通言語レベルでの調査・分析を行い、言語学的研究の他、工学的応用研究・開発や言語教育など多方面の領域に資する言語資源の構築を目指すものである。その中で、具体的にどのような表現が代名詞代用表現・呼びかけ表現となり得るのかを明らかにするため、8言語間比較用の共通調査項目(以下、「共通調査項目」)を作成し、各言語で記述の上、分析を行っている。本稿は共通調査項目のタイ語に関する部分の中で観察できた事象や知見、及び今後の展望について論ずるものである。なお、本稿中のタイ語の音韻表記についてはウィッターヤーパンヤーノン(2015)に従う。また、タイ文字表記では単語間でのスペースは不要ではあるが、The Royal Institute Dictionary(2011)に掲載されている表現を1つの単語とみなし、音韻表記では単語間にスペースを加えている。

I. 調査概要

1. 共通調査項目

共通調査項目については、日本語概念として147項目³挙げている。協同研究では、今回の調査に先立ち、各8言語で会話コーパスや文学作品等より代名詞代用表現、呼び

かけ表現に該当する表現を抜き出し、新たに構築した語彙リスト入力システムへ入力を行い、共通調査項目の条件を抽出するために予備調査を行った。なお、予備調査においてタイ語ではタイの TV 番組約 4 時間分と小説⁴を言語データとして参照し、その中から代名詞代用表現で自称 12 表現、対称 26 表現、呼びかけで 55 表現を抜き出した。こういった予備調査がタイ語以外にも各言語で行われ、そこで得られた実績・知見をもとに、協同研究メンバーで通言語的に調査すべき項目について検討を行い、最終的にはベトナム語、ビルマ語、マレー語、タイ語を専門とする 4 名での協議を経て、共通調査項目としての 147 項目を決定した。Nomoto et al. (2019)に基づき、147 項目は表現の意味的特徴に応じて、表 1 で示すカテゴリーに分類している。

表 1：共通調査項目カテゴリー分類

カテゴリー	項目数	例(日本語概念)
Age	7	坊や
Family(親族)	27	父
Fictional Family(非親族、虚構用法)	27	父
Education	6	先生
Relationship	10	友達
Position	7	社長
Service	8	医者
Spiritual	4	僧侶
Royal	5	陛下
Anaphor	2	自分
Quantifier	3	全員
Demonstrative	9	これ/この
Proper Name	7	人名
Modified Noun Phrase	13	～のお母さん
Miscellaneous	3	紳士淑女諸君
Personal Pronoun	9	私

8 言語でこれら 147 項目に対応する代表的な表現を選定し、それらの表現が敬称、自称、対称、呼びかけの各用法での使用可否を言語データや母語話者による作例に基づき検証している。自称、対称、呼びかけの各用法においては、敬称や接辞などを付加せず、その表現単独で使用可能であるかを判断基準としている。例えば、日本語の「看護婦」は単独では対称としては使用せず、「さん」を付加して使用するため、「看護婦」の対称での使用は原則不可となる。敬称については、その表現自体の敬称としての使用可否であり、その表現自体に敬称が付加するか否かではない。日本語の「社長」であれば、「社長さん」の使用可否ではなく、「鈴木社長」というように「社長」が敬称として使用で

きるかという点となる。

2. タイ語での調査方法、及び調査結果に関する表記

ウィッタヤーパンヤーノン(2020)では、人称代名詞以外の表現で発話者・対話者を指示する「代名詞代用表現」に相当するタイ語語彙として *kham theen burùt sàpphanaam* という用語を提唱し、それが生起する位置は主語、目的語の位置と述べていることから、本調査で自称と対称の判断をするに当たっては、その表現が主語、目的語の位置に生起するものとしている。また、対話者を発話の伝達先として同定する「呼びかけ表現」について同様にウィッタヤーパンヤーノン(2020)の中で、*kham riak bùkkhon* という用語を提唱した。対話者への注意喚起機能と再喚起機能を有する *kham riak bùkkhon* 「呼びかけ表現」は、文法的には主語や目的語の役割はなく、本文からは独立しており、本調査での呼びかけ用法の判断においては、例文の中で主語や目的語の役割を有していないことも確認している。*kham riak bùkkhon* 「呼びかけ表現」には終結小辞が必要な場合もあると述べている。

各調査項目でのタイ語の適用に関する調査結果については、本稿中の各表で用法別に「○」、「△」、「×」と表記している。「○」と表記されているものは、自称、対称、呼びかけとして、その表現単独で使用可能であることを示している。「△」と示されているものは、その表現単独では使用不可となるが、敬称などの追加要素が付加されることで使用が可能となるものとなる。なお、呼びかけ用法に限り、敬称だけではなく、終結小辞が付加されることで使用可能となるものも「△」で示している。他にも「△」で示す箇所の中には、その表現を自称、対称、呼びかけ用法として、一般的・中立的なニュアンスで使用することはしないが、敢えて使用することで嫌味などの特別なニュアンスを持たせる場合など、使用するケースが極めて限定的もしくは特殊なケースのみに使用可能となる用法であることも表しており、特殊な用法については個別に後述する。「×」で示されたものについては、敬称などの追加要素や特殊な用法も含めて、使用しないものとなる。一方、敬称用法について、ウィッタヤーパンヤーノン(2020)では、親族名称や職業名称、役職名称、名前などの名詞の前に付加され使用される語を *khamnamnâanaam* 「タイトル」と呼ぶことも合わせて提唱している。タイ語での *khamnamnâanaam* 「タイトル」は、敬意を表す表現以外にも、年下の対話者に対して、人名の前に *nónɔŋ* 「弟・妹」を付加して親しさを表す機能を持つ表現などもあるが、本調査では便宜上タイ語では敬

称と *khamnamnâanaam* 「タイトル」は同義として扱うこととし、その表現が *khamnamnâanaam* 「タイトル」として使用可能なものを「○」、使用できないものを「×」で示している。

共通調査項目として示されている日本語概念 147 項目に対応する代表的なタイ語表現の選定及び各用法での検証については、予備調査で参照した言語データから抜き出すことができた項目は、その事例を例文として引用している。しかしながら、147 の共通調査項目の全ての表現を現時点で利用可能な言語データだけでは網羅することはできないため、不足する部分については、タイ語母語話者である筆者が作例の上、検証を行った。タイ国語辞典編纂機関の Office of Royal Society of Thailand 会員である Assoc. Prof. Dr. Nitaya Kanchanawan(在タイ)には全体を通して意見を伺った。加えて、一部の項目で確認のためタイ語母語話者 5 名⁵に意見を聞いている。協力を仰いだタイ語母語話者は、タイ語教育者の観点から①日本の大学でのタイ語教育従事者(在日本)、タイの組織内で勤務する者の観点から②タイ国政府機関勤務者(在日本)、そして、より一般的なタイ語母語話者視点の観点から③-⑤タイ国に居住し、タイ語のみで生活する家族 3 名=母親、長女、長男(母親はタイの国立大卒、長女・長男はタイの国立大学在学中)とした。

II. 共通調査項目

本章では共通調査項目におけるタイ語の検証結果を前章で述べたカテゴリー別に論じる。なお、本稿で記載している表現以外にも使用可能な表現が他にも存在する項目もあるが、最も一般的と筆者が判断する表現を本稿では掲載している。

1. 「Age」

「Age」カテゴリーの調査項目は、対象者の年齢に基づく表現となり、日本語概念に対応するタイ語及びそれらのタイ語の各用法での適用は表 2 の通りとなる。

このカテゴリーで挙げられる表現は、全て対称と呼びかけのみでの使用に限られ、敬称と自称では使用されない。No.1「坊や」と No.2「お嬢ちゃん」は、タイ語では男女で別表現とはならず、共通で *dèk nóoy* となる。この No.1 と No.2 の構成要素となる *dèk* は単独で「子供」の意味ではあるが、性別を問わない No.3「子供」全体として対称や呼びかけで使用する際は、対象が複数の場合に限られ、繰り返し用法 *dèk dèk* としてのみ使

用する。タイ語では語の反復によって複数を示すことや意味の強化を引き起こすことなどがある(Changkhwanyuen 2006)。

表 2 : 「Age」 カテゴリー 調査項目

敬：敬称、自：自称、対：対称、呼：呼びかけ							
No.	日本語概念	タイ語	敬	自	対	呼	備考
1	坊や(10 歳くらいまでの年少者、男)	dèk nǒy	×	×	○	○	男女共通
2	お嬢ちゃん(10 歳くらいまでの年少者、女)	dèk nǒy	×	×	○	○	
3	子供 (10 歳くらいまでの年少者、男女問わず)	dèk dèk	×	×	△	△	対象が複数の場合のみ、繰り返し用法で使用
4	お嬢さん(10 代後半から 20 代前半、女)	sǎawnǒy	×	×	○	○	対話者との年齢差によって語が異なる
5	若い男性(10 代後半～20 代、男)	nǒy chaay phii chaay	×	×	○	○	
6	若い女性(10 代後半～20 代、女)	nǒy sǎaw phii sǎaw	×	×	○	○	
7	若者(10 代後半～20 代、男女問わず)	wayrùn	×	×	○	○	

共通調査項目では No.4 「お嬢さん」 sǎawnǒy だけであったが、タイ語では「10 代後半から 20 代前半、男」に対して使用可能な nùmnǒy という表現も、対称、呼びかけとして使用可能である。The Royal Institute Dictionary(2011)によると、No.4 の構成要素の一部である sǎaw 「若い女性」、及びそれに対応する男性用表現 nùm 「若い男性」の年齢範囲は、子供世代より上の 15～30 歳ぐらいとされている。sǎaw や nùm⁶は単独では代名詞代用や呼びかけとしては使用できず、No.4 のもう 1 つの構成要素となる nǒy 「小さい/少ない」や yày 「大きい」といった表現と一緒に用いる。nùm⁶yày、sǎawyày という表現は 30～50 代の中年世代を示す表現となる。No.4 「お嬢さん」 sǎawnǒy は、20 代後半の女性へ使用するのには違和感がある⁷。No.6 「若い女性(10 代後半～20 代、女)」の年齢範囲となる 20 代全体を含めるためには、親族名称 nǒy 「弟・妹」もしくは phii 「兄・姉」を含めた表現とし、発話者と対話者の年齢差に応じて使用する語が決定される。これは No.5 「若い男性(10 代後半～20 代、男)」についても同様である。

2. 「Family(親族)」

タイ語の親族名称に関する特徴的な事象として、祖父母や叔父・叔母(父親・母親の弟・妹)については、父方と母方で別の表現を用いる点がある。一方で、伯父・伯母(父親・母親の兄・姉)については同一表現となる他、孫と兄弟姉妹の子供(甥・姪)も同一表

現となる。

表3：「Family(親族)」 カテゴリー 調査項目

							敬：敬称、自：自称、対：対称、呼：呼びかけ
No.	日本語概念	タイ語	敬	自	対	呼	備考
8	父	phôo	×	○	○	○	
9	母	mêe	×	○	○	○	
10	伯父(父の兄)	luŋ	△	○	○	○	敬称：同時に同じ立場の人が複数名いる場合
11	伯父(母の兄)	luŋ	△	○	○	○	
12	叔父(父の弟)	?aa	△	○	○	○	
13	叔父(母の弟)	náa	△	○	○	○	
14	伯母(父の姉)	pâa	△	○	○	○	
15	伯母(母の姉)	pâa	△	○	○	○	
16	叔母(父の妹)	?aa	△	○	○	○	
17	叔母(母の妹)	náa	△	○	○	○	
18	祖父(父の父)	pùu	×	○	○	○	
19	祖父(母の父)	taa	×	○	○	○	
20	祖母(父の母)	yâa	×	○	○	○	
21	祖母(母の母)	yaay	×	○	○	○	
22	兄	phii chaay	×	×	×	×	男女の区別がない phii なら全用法で使用
23	姉	phii sâaw	×	×	×	×	使用
24	弟	nóŋ chaay	×	×	×	×	男女の区別がない nóŋ なら敬称では使用
25	妹	nóŋ sâaw	×	×	×	×	使用
26	子	lûuk	×	○	○	○	
27	息子	lûuk chaay	×	×	△	△	嫌味や怒りを込めて、敬称付で使用
28	娘	lûuk sâaw	×	×	△	△	
29	孫	lâan	×	○	△	△	対称：「誰の」を付加 対称、呼びかけ：対象が複数の場合のみ、繰り返し用法で使用
30	嫁(息子の妻)	lûuksapháy	×	×	△	△	嫌味や怒りを込めて、敬称付で使用
31	婿(娘の夫)	lûukkhǎy	×	×	△	△	
32	甥	lâan chaay	×	×	△	△	
33	姪	lâan sâaw	×	×	△	△	
34	いとこ	lûukphii lûuknóŋ	×	×	×	×	

No.8「父」、No.9「母」、No.18～21「祖父・祖母」については、自称、対称、呼びかけでは使用されるが、敬称としては使用されない。これは親族の中でそれぞれの立場の人が原則1人だけであることに起因するものと考えられる。No.10～17「伯父・伯母・叔父・叔母」は自称、対称、呼びかけで使用されるが、限られたケースで敬称として使用することもある。これらの表現に該当する同じ立場の親族が対話に複数名いる場面では、luŋ nát「ナット伯父さん」のように、人名を付加して使用する。

No.22「兄」phii chaay、No.23「姉」phii sâaw は、実際の兄や姉には用いることのない表現である。但し、性別問わず、年上の「兄・姉」を意味する phii であれば、敬称、自

称、対称、呼びかけの全用法で使用されている。No.24「弟」*nóŋ chaay*、No.25「妹」*nóŋ sǎaw* も実際の親族にはいずれの用法でも使用しない。一方で男女の区別がない*nóŋ*「弟・妹」は敬称では使用可能であるが、自称や対称、呼びかけでは使用しない。第1章で言及した通り、人名の前に付加して用いる *khamnamnáanaam* 「タイトル」には敬意を示す機能だけでなく、年下も含めた対話者との年齢差や親しさなどを表す機能を持つ表現があるのもタイ語の特徴である。

No.26「子」*lûuk* は、自称、対称、呼びかけで使用可能であるのに対して、性別を区別する No.27「息子」*lûuk chaay* と No.27「娘」*lûuk sǎaw* については、原則、家族に対しての使用はない。但し、強い嫌味や怒りを表す場合は、その感情をより強調するため敬称 *khun* 「～さん」を付加して、対称や呼びかけで使用する特殊ケースもある。その場合は、息子や娘といった家族の中での立場を強調する文脈で使用する事が多い。この特殊ケースは No.30「嫁」*lûuksapháy*、No.31「婿」*lûukkhǎy*、No.32「甥」*lǎan chaay*、No.33「姪」*lǎan sǎaw* についても同様で、実際の親族に対しては、これらの表現は通常使用することはない。嫌味や怒りの意味を込めて、敬称 *khun* 「～さん」を付加し、対称や呼びかけで使用する事はある。No.29「孫」*lǎan* は対称で使用する場合、*lǎan* 単独では使用しないが、母方の祖父が *lǎan taa* 「母方の祖父の孫」と誰の孫かを分かる表現で使用することがある。また、No.3「子供」と同様に対象が複数の場合、対称と呼びかけで複数の意味を表す繰り返し用法 *lǎan lǎan* として使用する。*lǎan* は「孫」だけでなく、性別を区別しない「甥・姪」を示す語でもある。複数の「甥・姪」を指示する対称と呼びかけでは、同様に繰り返し用法 *lǎan lǎan* を使用する。

3. 「Fictional Family(非親族、虚構用法)」

共通調査では「Family(親族)」カテゴリと同一表現を用いて、実際の親族以外に対して、どのように使用されているかの調査も行っている。

表4：「Fictional Family(非親族、虚構用法)」カテゴリ 調査項目

敬：敬称、自：自称、対：対称、呼：呼びかけ

No.	日本語概念	タイ語	敬	自	対	呼	備考
35	父	phô02	△	△	△	△	親子関係である人物も含めた関係性の中で使用
		phô03	○	×	×	×	若い男性に対して
36	母	mê02	△	△	△	△	親子関係である人物も含めた関係性の中で使用

		mêe03	○	×	×	×	若い女性に対して
37	伯父(父の兄)	luŋ	○	○	○	○	場合によっては、ネガティブな印象
38	伯父(母の兄)	luŋ	○	○	○	○	
39	叔父(父の弟)	ʔaa	○	○	○	○	・ 親族関係にある人物も含めた関係性の中で使用 ・ 近年使用傾向
40	叔父(母の弟)	náa	○	○	○	○	親より年下であることが明確
41	伯母(父の姉)	pâa	○	○	○	○	場合によっては、ネガティブな印象
42	伯母(母の姉)	pâa	○	○	○	○	
43	叔母(父の妹)	ʔaa	○	○	○	○	・ 親族関係にある人物も含めた関係性の中で使用 ・ 近年使用される傾向
44	叔母(母の妹)	náa	○	○	○	○	親より年下であることが明確
45	祖父(父の父)	pùu	○	○	○	○	・ 親族関係にある人物も含めた関係性の中で使用 ・ 祖父の兄弟にも使用 ・ 近年使用傾向
46	祖父(母の父)	taa02	○	○	○	○	祖父の兄弟にも使用
		taa03	○	×	×	×	若い男性に対して
47	祖母(父の母)	yâa	○	○	○	○	・ 親族関係にある人物も含めた関係性の中で使用 ・ 祖母の姉妹にも使用 ・ 近年使用傾向
48	祖母(母の母)	yaay02	○	○	○	○	祖母の姉妹にも使用
		yaay03	○	×	×	×	若い女性に対して
49	兄	phii chaay	×	×	○	○	男女の区別がない phii なら全用法で 使用可
50	姉	phii sâaw	×	×	○	○	
51	弟	nóŋ chaay	×	×	○	○	男女の区別がない nóŋ なら全用法 で 使用可
52	妹	nóŋ sâaw	×	×	○	○	
53	子	lûuk	×	×	○	○	
54	息子	lûuk chaay	×	×	×	×	虚構用法なし
55	娘	lûuk sâaw	×	×	×	×	虚構用法なし
56	孫	lăan	△	△	△	△	親族関係にある人物も含めた関係性 の中で使用
57	嫁(息子の妻)	lûuksapháy	×	×	×	×	虚構用法なし
58	婿(娘の夫)	lûukkhǎy	×	×	×	×	虚構用法なし
59	甥	lăan chaay	×	×	△	△	
60	姪	lăan sâaw	×	×	△	△	
61	いとこ	lûukphii lûuknóŋ	×	×	×	×	虚構用法なし

筆者は2018年にタイ語母語話者580名を対象に人称表現、呼びかけ表現に関するアンケート調査を実施し、人称表現毎に調査結果の分析と考察を行った。年下の対話者には自称として phii 「兄・姉」が多用され(ウィッタヤーパンヤーノン 2019a)、対称や呼びかけでは、敬称用法も含め、年上の対話者に対して phii 「兄・姉」、luŋ 「伯父」、pâa 「伯母」が、年下の対話者に対しては nóŋ 「弟・妹」が多用されており(ウィッタヤーパンヤーノン 2019b)、親族名称の虚構用法がタイ語において非常に重要な役割を担っていることを示している。

今回の調査では、親族名称の虚構用法の中に限っても、同一表現で指示する人物像が異なり、かつ使用可能な用法が異なるケースが明らかになったため、その場合は便宜上、phô02、phô03 のようにタイ語の各表現の後に数字を付加している。

No.35 「父」 phô02、No.36 「母」 m̄e02 は、実際の親子関係をイメージした虚構用法として使用する場合、自称では子供の友人に対して、対称では友人の親に対してなど、実際の親子関係にある人物の存在が必要となり、全く知らない人に対しては使用することはない。前節で示した通り、実際の父母に対しての敬称用法はないが、虚構用法に限っては、その表現が指示する人物の名前を知っている場合は「phô02/m̄e02+父親/母親の人名」という敬称用法で使用することもある。さらに、「父」 phô03 と「母」 m̄e03 は、親子関係とはかけ離れた人物に対して使用することがある。発話者より年下の若い男性や女性に対して、親しみの意味で人名の前に付加して使用することがある。この「phô03/m̄e03+人名」は、日本語での「～くん/～ちゃん」というニュアンスに近い。

タイ語での伯父・伯母・叔父・叔母・祖父・祖母の表現は少々複雑であるため、表 5 に整理している。伯父・伯母では父方・母方とも同一の表現を用いるのに対して、叔父・叔母、祖父母では父方・母方で異なる表現を用いる。虚構用法では、原則、母方の表現を用いるとされているが(Prasithratsint 1981)、今回の調査を通して、その用法に変化が起きていることが確認できた。

表 5：タイ語での「伯父・伯母・叔父・叔母・祖父・祖母」表現一覧

	父方	母方
伯父	luŋ	
伯母	pâa	
叔父	ʔaa	náa
叔母		
祖父	pùu	taa
祖母	yâa	yaay

自称であれば自身の子供相当の年齢層、対称、呼びかけでは自身の両親相当の年齢層の対話者に対して、既知・未知を問わず、No.37&38 「伯父」 luŋ、No.41&42 「伯母」 pâa を全用法で使用する。加えて、既知の人物で明らかに自身の両親より年下の場合は、母方の No.40&No.44 「叔父・叔母」を表す náa を使用するが、最近ではその用法に変化が生じている。従来、父方の No.39&43 「叔父・叔母」 ʔaa を虚構用法で使用するケースは限定されていた。例えば、発話者=A が友人=B とその友人の父方の叔父=C と 3 人で

会話している場面で、B が C を ?aa と呼ぶ場合は、A はその影響を受け、A も C を ?aa と呼ぶといったケースである。最近ではそれだけではなく、発話者の兄・姉の世代とは言えず、両親に近い世代の対話者に対しては、「伯父」 luŋ、「伯母」 p̄aa、母方の「叔父・叔母」 náa よりも、父方の「叔父・叔母」 ?aa が好んで用いられるようになってきているとの意見が聞かれた。「伯父」 luŋ、「伯母」 p̄aa、母方の「叔父・叔母」 náa は、確かに今も使用されているが、古臭い表現で、年配のマイナス側面でのイメージが強くなってきており、対話者によっては失礼な印象になってしまうこともある。

祖父母に関する表現についても、同様に自称であれば自身の孫相当の年齢層、対称、呼びかけでは自身の祖父母相当の年齢層の対話者であれば、既知・未知を問わず、母方の No.46 「祖父」 taa02、No.48 「祖母」 yaay02 が全用法で使用される。これらの表現についても、最近では対象者が非常に高齢の印象となり、かつ古臭い表現となってきたおり、父方の No.45 「祖父」 p̄uu と No.47 「祖母」 ȳaa が好まれる傾向となっているという意見であった。また、No.45～48 の祖父母を表す各タイ語表現は伯祖父・叔祖父・伯祖母・叔祖母にも用いられるが、実際の祖父母と異なり複数名いるため、敬称用法としても使用可能である。この点は前節の「Family(親族)」カテゴリーとの違いである。加えて、母方の No.46 「祖父」 taa03、No.48 「祖母」 yaay 03 に限っては、年下の若者への親しみを込めた敬称「～くん/～ちゃん」としても使用することもある。これは前述の「ph̄o03/m̄e03+人名」と同じ用法で、使用できる対話者の範囲も「ph̄o03/m̄e03+人名」と「taa03/yaay03+人名」での違いはない。

男女を区別する表現 No.49 「兄」 ph̄i chaay、No.50 「姉」 ph̄i s̄aaw は、No.22、No.23 で示した通り、実際の親族には、いずれの用法でも使用することはないが、虚構方法においては対称と呼びかけで使用できる。また、男女の区別がない ph̄i 「兄・姉」という表現は、実際の親族と同様、虚構用法でも全用法で使用可能となり、年上の対話者に対して敬称用法も含め非常に多用される表現である。No.51 「弟」 n̄oŋ chaay、No.50 「妹」 n̄oŋ s̄aaw についても同様に実際の親族には使用しないが、虚構用法であれば、対称と呼びかけで使用される。男女の区別がない n̄oŋ 「弟・妹」は、実際の親族に対しては敬称としてのみ使用するのに対して、虚構用法では対称、呼びかけとしても使用される。

No.53 「子」 l̄uuk は子供に加え、先生が学生などに対して対称や呼びかけとしては使用されるものの、虚構用法では自称としては使用しない。性別を分けた子供への表現となる No.54 「息子」 l̄uuk chaay と No.55 「娘」 l̄uuk s̄aaw は、虚構用法では特殊ケースも

含め、使用することはない。No.56「孫」lăan は、実際の祖父母と孫の関係を前提に、祖父母と孫の友人間において各用法で使用される。No.59「甥」lăan chaay、No.60「姪」lăan sǎaw は、主に知らない人に対して、対称、呼びかけで使用される。これら 2 つの表現は、甥と男性の孫、そして姪と女性の孫が同一表現であること、使用するケースとしては、高齢者が年齢の大きく離れた人に対してということに鑑み、「甥・姪」の虚構用法というよりむしろ「男性の孫・女性の孫」の虚構用法と言えるため、表中は「△」としている。No.57「嫁」lúuksapháy、No.58「婿」lúukkhǎøy、No.61「いっこ」lúukphiiilúuknóɔŋ は虚構用法で使用することはない。

4. 「Education」、「Relationship」、「Position」、「Service」

「Education」は教育に関わる表現、「Relationship」は公私での人間関係を示す表現、「Position」は役職名称、「Service」は職業名称となる。

表 6 : 「Education」 カテゴリー 調査項目

敬：敬称、自：自称、対：対称、呼：呼びかけ

No.	日本語概念	タイ語	敬	自	対	呼	備考
62	先生	khruu, ʔaacaan	○	○	○	○	
63	教授(職位としての「教授」、大学の先生一般ではない)	sàattraacaan	○	×	△	△	敬称や丁寧小辞が必要 →(呼)いずれかでも可
64	児童(小学校)	nákrian	×	×	○	○	
65	生徒(中学校、高校)	nákrian	×	×	○	○	
66	学生(大学)	náksùksǎa	×	×	○	○	
67	コーチ	khóot	○	×	○	○	

教職の汎用的な表現となる No. 62「先生」については、khruu と ʔaacaan という表現が各用法で広く使われる。No.63「教授」sàattraacaan の敬称用法は主に公の場で使用される。対称や呼びかけでは立場が下の者が使用することが多く、ポライトネスの観点から敬称 thāan 「～様」を付加し、呼びかけでは丁寧小辞 khráp/kháʔ も加えることもあるが、敬称と丁寧小辞のいずれかのみでも許容される。教育の受け手側となる No.64「児童」nákrian、No.65「生徒」nákrian、No.66「学生」náksùksǎa は、対称と呼びかけでのみ使用する。No.67「コーチ」khóot は英語の coach がそのままタイ語でも使用され、主にスポーツの指導者に使われ、自称以外の用法で使用可能である。

表7: 「Relationship」 カテゴリー 調査項目

敬: 敬称、自: 自称、対: 対称、呼: 呼びかけ

No.	日本語概念	タイ語	敬	自	対	呼	備考
68	友達	phûan	○	○	○	○	
69	夫	săamii	×	×	△	△	敬称が必要
70	妻	phanrayaa	×	×	△	△	敬称が必要
71	愛しい人(=パートナー専用の呼び名)	thiirák	×	×	○	○	
72	上司	hûanâa	×	×	○	○	
73	部下	lûuknóŋ	×	×	×	×	
74	先輩	rûn phii	×	△	△	△	複数の場合に使用
75	後輩	rûn nóŋ	×	△	△	△	複数の場合に使用
76	主人	câwnaay	×	×	○	○	
77	使用人(従う側)	khoncháy	×	×	×	×	

No.68「友達」 phûan は全用法で用いられている。No.69「夫」 sâamii と No.70「妻」 phanrayaa は冗談や嫌味の文脈で、敬称 khun「～さん」を付加し、対称、呼びかけで使用される一方、No.71「愛しい人」 thiirák は対称と呼びかけとして単独で使用される。No.72「上司」 hûanâa は対称や呼びかけで使用するのに対して、No.73「部下」 lûuknóŋ は使用しない。下の立場の者が上の立場については使用する傾向は、No.75「主人」 câwnaay と No.76「使用人」 khoncháy の組み合わせにおいても同様である。こういった明確な力関係の中で、上の者がここで示されているような関係性を示す表現を下の者に対して使うのは、高圧的・差別的な印象となるため使用しない。No.74「先輩」 rûn phii と No.75「後輩」 rûn nóŋ は複数の場合に限りて使用することもあるが、先輩の場合は敬称用法も含めた「兄・姉」 phii の虚構用法、後輩の場合は固有名を用いるのがより一般的である。なお、No.74 と No.75 の自称用法については、今回意見を伺ったタイ語母語話者の中で意見が分かれた。複数名を対象とするという点では一致しているものの、大学生の2人は自称で使用すると主張するのに対して、Office of Royal Society of Thailand 会員の Dr. Nitaya は自称では使用しないという見解であった。

表8: 「Position」 カテゴリー 調査項目

敬: 敬称、自: 自称、対: 対称、呼: 呼びかけ

No.	日本語概念	タイ語	敬	自	対	呼	備考
78	社長	prâthaan bôorisât	△	×	△	△	敬称+(簡略)prâthaan+(呼)丁寧小辞
79	課長	phûucâtkaan	○	×	○	○	
80	学長	?athikaanbôodii	△	×	△	△	敬称+(簡略)?athikaan+(呼)丁寧小辞
81	校長	phûu ?amnuay kaan	△	×	△	△	敬称+(簡略)phôo ?oo.+(呼)丁寧小辞
82	議長	prâthaan rátthásaphaa	△	×	△	△	敬称+(簡略)prâthaan+(呼)丁寧小辞

83	総理大臣	naayókráthámontrii	△	×	△	△	敬称+(簡略)naayók+(呼)丁寧小辞
84	大統領	práthaanaathíboodii	△	×	△	△	敬称+práthaanaathíboodii+(呼)丁寧小辞

「Position」カテゴリーの表現は、No.79「課長」を除き、いずれも組織のトップクラスである役職となるが、これらの表現を敬称として使用するの公の場が多い。また、トップクラスであるため、下の者が対称使用の場合は敬称 *thâan*「～様」、呼びかけでは *thâan*「～様」に加えて丁寧小辞 *kháp/khá?*が必要となる。いずれも表現が長いからか、使用の場合は簡略化した表現を用いることが多い。敬称用法において、その語自体が敬称化するものの、さらに敬称 *thâan*「～様」を付加し、「ティーラ社長様」*thâan práthaan thiirá?*といった二重敬称として、主に公の場で使用される。No.84「大統領」*práthaanaathíboodii*については、そのままの表現を用いるが、敬称 *thâan* と呼びかけでは丁寧小辞が必要となる点ではNo.83「総理大臣」等と同様である。

表9:「Service」カテゴリー 調査項目

敬：敬称、自：自称、対：対称、呼：呼びかけ

No.	日本語概念	タイ語	敬	自	対	呼	備考
85	医者	<i>mǎo</i>	○	○	○	○	
86	看護師	<i>phayaabaan</i>	×	○	△	△	対称・呼びかけ：敬称が必要
87	運転手	<i>khon khàp rôt</i>	×	×	×	×	
88	警察官	<i>tamrùat</i>	×	×	△	△	敬称が必要
89	物売り(売り買いで客の対となる概念)	<i>mêe kháa, phôo kháa</i>	×	○	○	○	市場
		<i>phanákjaan khây</i>	×	×	×	×	デパート
90	職員(役所などの)	<i>câwnâathii</i>	×	×	△	△	敬称が必要
91	客	<i>lúukkháa</i>	×	△	○	○	自称：怒りの文脈で客の立場を強調
92	兵士	<i>thahâan</i>	×	×	△	△	敬称が必要

No.85「医者」*mǎo* は敬称も含め全用法で使用可能となるが、それ以外の表現については敬称で使用することはない。No.86「看護師」*phayaabaan* は自称の場合は単独で用いるが、対称や呼びかけでは敬称 *khun*「～さん」を付加して用いる。No.88「警察官」*tamrùat* や No.92「兵士」*thahâan* は、対称や呼びかけでは職位が分かっているようであれば、職位を使用することが多いが、職位が分からない対話者に対しては、敬称 *khun*「～さん」を付加し、*khun tamrùat* や *khun thahâan* として対称や呼びかけで使用される。No.89「物売り」については、場所によってタイ語での表現が異なる。街中の市場での物売りは女性なら *mêe kháa*、男性なら *phôo kháa* であるのに対して、デパートなどの販売員は *phanákjaan khây* となる。*mêe kháa* と *phôo kháa* は自称、対称、呼びかけとして使用する一方で、*phanákjaan khây* は使用することはない。この点について、市場の物

売りは独立した事業主であるのに対して、デパートの販売員は被雇用者という立場の違いが影響していると Office of Royal Society of Thailand 会員の Dr. Nitaya が示唆されていた。No.90「職員」câwnâathîi は、敬称として khun「～さん」を付加した上で対称や呼びかけで使用する。No.91「客」lûukkháa は、自称で使用する場合は、怒りの文脈で客の立場を強調するケースに限って使用する。

5. 「Spiritual」、「Royal」

「Spiritual」は宗教関連、「Royal」は王族関連の表現となる。

表 10 : 「Spiritual」 カテゴリー 調査項目

No.	日本語概念	タイ語	敬：敬称、自：自称、対：対称、呼：呼びかけ				備考
			敬	自	対	呼	
93	僧侶	phráʔ sǒŋ	△	×	×	×	
94	スルタン	sǔnlátàan	×	×	×	×	
95	神父	bàatlǔaŋ	×	×	×	×	
96	牧師	sityaaphíbaan	×	×	×	×	

No.93「僧侶」について、仏僧を指す phráʔ sǒŋ という表現はあるが、自称では ʔàattamaa といった僧侶専用の人称代名詞など、タイ語には僧侶専用の表現がある。他にも僧侶との年齢差に応じて、lǔaŋ phîi、lǔaŋphôo、lǔaŋ taa といった表現を使い分けているが、これらの表現はタイトルとしての lǔaŋ と phîi「兄」/phôo「父」/taa「(母方の)祖父」から構成されており、親族名称・虚構用法の派生表現と考えられる。また、敬称で phráʔを使用する場合、その僧侶が位を取得していれば、「phráʔ+位+人名」という形で使用する。No.94「スルタン」に対応する表現は確かにタイ語で sǔnlátàan としてあるが、The Royal Institute Dictionary(2011) には「イスラム王国の王」と記載されており、日常的にはタイで使用する機会は少ない。イスラム宗教指導者という意味では ʔimàam という表現を用いる。日本語の No.95「神父」、No.96「牧師」同様、カトリックとプロテスタントで分ける表現はタイ語にも存在するが、対称や呼びかけには別の表現を使用する。「神父」であれば khun phôo「お父さん」、「牧師」であれば ʔaacaan「先生」を使用するのが一般的である。

表 11 : 「Royal」 カテゴリー 調査項目

敬：敬称、自：自称、対：対称、呼：呼びかけ

No.	日本語概念	タイ語	敬	自	対	呼	備考
97	陛下	tâyfaaláʔəŋthúliiphrábàat	×	×	○	○	王、王妃へ使用 ⁸
98	王	phrámahāakasāt	×	×	×	×	
99	王妃	phrábəromraashíni	×	×	×	×	
100	王子	səmdətphráráatcháʔoorót	×	×	×	×	
101	王女	səmdətphráráatcháthídaa	×	×	×	×	

王族に関する名称については、No.98～No.101のような立場を表す表現をそのまま各用法で使用することはない。No.97「陛下」tâyfaaláʔəŋthúliiphrábàatのように、使用する人物(=王、王妃)と用法(=対称、呼びかけ)が特定された王族専用の表現を使用することとなる。

6. 「Anaphor」、「Quantifier」、「Demonstrative」、「Proper Name」

本節では照応形「Anaphor」、数量を示す表現を含んだ表現「Quantifier」、指示代名詞「Demonstrative」、及び固有名「Proper Name」に関して述べる。

表 12 : 「Anaphor」 カテゴリー 調査項目

敬：敬称、自：自称、対：対象、呼：呼びかけ

No.	日本語概念	タイ語	敬	自	対	呼	備考
102	自分	tuaʔeŋ	×	○	○	○	
103	人名+自身	chúuu khon+ʔeŋ	×	○	○	×	

No.102、No.103とも自称と対称で用いられるが、呼びかけで使用するのはNo.102「自分」tuaʔeŋのみとなる。これらの表現は人称代名詞ʔanyoonyáʔ sàpphanaamの一種とタイ語ではみなされている⁹。

表 13 : 「Quantifier」 カテゴリー 調査項目

敬：敬称、自：自称、対：対象、呼：呼びかけ

No.	日本語概念	タイ語	敬	自	対	呼	備考
104	全員	thúk khon	×	○	○	○	
105	二人	səŋ khon	×	○	○	○	
106	二人とも	tháj khúu	×	○	○	○	

「Quantifier」カテゴリーで示したものは、各表現単独で使用し、文脈によって自称か対称かを判断もできるが、より明確にしたい場合は、「私たち」や「あなたたち」に該当する人称代名詞と合わせて使用することもある。

表 14 : 「Demonstrative」カテゴリー 調査項目

敬：敬称、自：自称、対：対象、呼：呼びかけ

No.	日本語概念	タイ語	敬	自	対	呼	備考
107	これ/この	nii/...nii	×	○	△	△	
108	これら/これらの	phûak nii / ...phûak nii	×	×	×	×	
109	それ/	nân/	×	×	○	×	
	その	...nân	×	×	○	○	
110	それら/それらの	phûak nân / ...phûak nân	×	×	×	×	
111	あれ/あの	nôn / ...nôn	×	×	×	×	
112	あれら/あれらの	phûak nôon / ...phûak nôon	×	×	×	×	
113	ここ	thii nii	×	×	×	×	
114	そこ	thii nân	×	×	×	×	
115	あそこ	thii nôon	×	×	×	×	

No.107「これ/この」nii/...nii はともに自称、対称、呼びかけとして使用としているが、今回意見を聞いたタイ語母語話者間で意見が分かれる項目の1つでもあった。大学生の2人は対称、呼びかけでも使用するという見解に対して、Office of Royal Society of Thailand 会員の Dr. Nitaya は対称、呼びかけでは使用しないという見解であったため、表中は「△」としている。No.109は「それ」と「その」で用法が分かれる。「それ」nân は対称として使用できるが、その表現が示す距離的感覚から対話者を特定するには漠然とし過ぎているため、呼びかけとしては使用しない。一方、人に用いる類別詞 khon とともに「その」nân を使用すれば、対話者を特定することが可能なため、呼びかけでも使用される。No.111「あれ/あの」nôn/...nôn は、指し示す対象が発話者からの距離が離れているため、自称や対称では使用しない。複数を表す指示代名詞や場所を指し示す表現についても、自称、対称等で用いることはない。

表 15 : 「Proper Name(固有名)」カテゴリー 調査項目

敬：敬称、自：自称、対：対象、呼：呼びかけ

No.	日本語概念	タイ語	敬	自	対	呼	備考
116	人名	puun, tám	×	○	○	○	
117	敬称(専用の表現)	?áy, ?ii, naaŋ, naaŋsáaw, naay	○	×	×	×	
118	人名+敬称	?áy+chúuu khon,	×	×	○	○	
119	人名+首相	naayók+chúuu khon	×	×	△	△	敬称+略称 naayók+(呼) 丁寧小辞

120	人名+先生	ʔaacaan+chúuu khon	×	○	○	○	
121	人名+Dr.	dóktâə+chúuu khon	×	×	○	○	
122	人名+お姉さん	phii+chúuu khon	×	○	○	○	男女共有表現

N.116「人名」は発話者の性別問わず自称でも多用されるが、タイ語では本名よりも生まれた時に本名とともに命名されるニックネームの使用が好まれる。No.117は敬称/タイトルとしてのみ使用される表現を対象としている。敬称/タイトルとして使用できる表現として *phii*「兄・姉」や *nóɔŋ*「弟・妹」といった表現もあるが、その表現単体でも自称・対称としても使用でき、かつ敬称と自称・対称で指示できる対象が同じである場合は、No.117の対象外としている。そのため、No.117の適用用法は敬称のみとなり、No.118「人名+敬称」の敬称部分に該当する表現は、No.117と同一の表現のみを想定している。No.117として挙げた *ʔáy* と *ʔii* は、親しい関係の対話者や親しくはないが怒りを表す場合などに用いる表現で、前者は男性、後者は女性に対して使用する。ニュアンス的には「～の野郎」に近い表現である。また、既婚女性 *naaŋ*、未婚女性 *naaŋsǎaw*、男性 *naay* を意味する表現も敬称専用となる。こういった敬称専用表現と人名の組み合わせは自称では使用しない。なお、*ʔii* と *naaŋ* そして *naay* は次節で示している通り、人称代名詞として用いることもできる。但し、*ʔii* と *naaŋ* は女性だけでなく男性も含めた他称として、*naay* は男性だけでなく女性も含めた対称として用いられており、敬称として使用する場合と指示する対象が異なることから、敬称専用表現とみなしている。No.119「人名+首相」については、表8:「Position」で前述した通り、首相の略称となる *naayók* であれば、対称と呼びかけにおいて人名とともに用いることができるが、敬称「～様」*thāan* と丁寧小辞 *khráp/kháʔ* をともに用いて使用される。No.120「人名+先生」*ʔaacaan+chúuu khon* については、教職の「先生」以外にも、仏僧や牧師などにも用いられる。No.121「人名+Dr.」は、英語の *doctor* がそのままタイ語でも使用され、対称と呼びかけで使用可能である。No.122「人名+お姉さん」については、本章第2節と第3節で述べた通り、性別を限定しない *phii*「兄・姉」という表現を用いて、実際の親族と虚構用法で自称、対称、呼びかけで使用する。

7. 「Modified Noun Phrase」、「Miscellaneous」、「Personal Pronoun」

最後に「Modified Noun Phrase」修飾要素を含む名詞句、及びどのカテゴリーにも入れられない「Miscellaneous」その他の表現、そして「Personal Pronoun」人称代名詞の調査

結果について述べる。

他のカテゴリーの調査項目は基本的に単語となるが、複雑な統語構造を持つ表現を項目として取り上げ、通言語的に構造的に類似する表現が代名詞代用の用法を持つかを調査することを目的に、修飾要素を含む名詞句「Modified Noun Phrase」を1つのカテゴリーとして設けた。

表 16 : 「Modified Noun Phrase(修飾要素を含む名詞句)」カテゴリー 調査項目

敬：敬称、自：自称、対：対象、呼：呼びかけ

No.	日本語概念	タイ語	敬	自	対	呼	備考
123	～のお母さん	mêe chûuu khon	×	△	○	○	chûuu khon 「人名」
124	あなたのお父さん	phôo kee	×	○	×	×	
125	お父さんの子	lûuk phôo	×	○	○	○	
126	おばあちゃんの孫	lâan yaay	×	○	○	○	
127	ラジオのリスナー	thâan phûu faj	×	×	○	○	複数の場合に使用
128	そこのあなた	khun troj nán	×	×	○	○	
129	そこのお兄さん	phûichaay troj nán	×	×	○	○	
130	その後ろの席の方	khun thii nâj khâaj lăj troj nán	×	×	○	○	
131	美しいお姉さん	phii sâaw khon sūay	×	×	○	○	
132	熱のある人(関係節を使う)	khon thii mii khây	×	×	○	○	複数の場合に使用
133	課題をまだ出していない人	khon thii yaj mây dâj sòj nâan	×	×	○	○	複数の場合に使用
134	この三人	sâam khon níi	×	○	○	○	
135	家族全員	thúk khon nay khrôpkrhua	×	○	○	○	

タイ語では No.123～126 の日本語概念に含まれる「～の」に該当する表現は不要で、語順で誰の母、父であるかを示す。A+khǒŋ+B で「B の A」という表現を用いることもできるが、所有や帰属を強調したい場合となる。No.123 「～のお母さん」について、「～」に第三者の人名を使う場合、対称と呼びかけで使用することができる。但し、mêe nít という表現には「ニットのお母さん(子供の名前=ニット)」、「ニット母さん(母の名前=ニット)」、さらには No.36 で言及した「ニットちゃん」と3通りの解釈が可能になってしまう。そこで nít が子供を指示することを明確にするためには、子供の名前の前に nóŋ を付加し、「ニットちゃんのお母さん」 mêe nóŋ nít として使用する。この nóŋ は元来の「弟・妹」の意味から広がり、自身の子供も含め、年下の可愛い者を広く含む表現となっている。mêe nóŋ nít は自称としても使用可能である。No.124 「あなたのお父さん」 phôo kee は父と子の対話で父親が自称に限って使用することができる。それに対して、No.125 「お父さんの子」 lûuk phôo、No.126 「おばあちゃんの孫」 lâan yaay の場合

は、自称だけでなく、対称と呼びかけでも使用可能である。

No.127「ラジオのリスナー」は、*phûu faj*「聞く人」に対称であることを示す *thân* を付加することで、複数の対話者に限って対称と呼びかけで使用でき、「ラジオ」という表現は不要となる。No.128「そこのあなた」*khun troj nán*、No.129「そこのお兄さん」*phii chaay troj nán*、No.130「その後ろの席の方」*khun thii nâj khâaj lăj troj nán* の3項目の中で、タイ語ではNo.130「その後ろの席の方」のみ関係詞 *thii* を用いた表現となる。「その」といった場所代名詞との使用であれば、日本語で「そこにいるあなた」といった表現とする必要がないのはタイ語でも同様であるが、場所が「席」と特定されるとタイ語では動詞「座る」*nâj* を含んだ表現が関係詞を用いて必要となる。No.131「美しいお姉さん」*phii sǎaw khon sǔay* は人物を特定するためには類別詞 *khon* がタイ語では必要となる。No.132「熱のある人」*khon thii mii khây*、No.133「課題をまだ出していない人」*khon thii yaj mây dâj sòj nǎan* は、ともに関係詞 *thii* を用いて、対称と呼びかけで使用できるが、対話者が複数の場合に使用する。No.134「この三人」*sǎam khon nii* は表 14 : 「Demonstrative」のNo.107「この」*nii* を含んだ表現となる。No.135「家族全員」*thúk khon nay khrôpkhrua* は *nay*「内、中」を用いて「家族(*khrôpkhrua*)の中の全員(*thúk khon*)」という表現となり、発話者を含めた自称としても使用可能である。

表 17 : 「Miscellaneous(その他)」 カテゴリー 調査項目

敬：敬称、自：自称、対：対象、呼：呼びかけ

No.	日本語概念	タイ語	敬	自	対	呼	備考
136	紳士淑女諸君	<i>thân sùphâapburùt lé? sùphâapsatrii</i>	×	×	○	○	
137	まぬけ	<i>?ây nõo</i>	○	×	○	○	
138	お金持ち(の人)	<i>sètthii</i>	×	×	×	×	

表 18 : 「Personal Pronoun(人称代名詞)」 カテゴリー 調査項目

敬：敬称、自：自称、対：対象、呼：呼びかけ

No.	日本語概念	タイ語	敬	自	対	呼	備考
139	私	<i>phôm, dichán, chán, kuu, raw</i>	×	○	×	×	<i>raw</i> : No.140, 141, 142
		<i>nũu</i>	○	○	×	×	<i>nũu</i> :No.142
140	私達(包括形)	<i>raw, phúak raw</i>	×	○	×	×	<i>raw</i> : No.139, 142
141	私達(除外形)	<i>raw, phúak raw</i>	×	○	×	×	<i>phúak raw</i> : No.143
142	あなた	<i>thân, khun, nõu, câw</i>	○	×	○	○	<i>nũu</i> :No.139
		<i>thəə, lôn, kɛɛ, muɔŋ, raw, naay</i>	×	×	○	○	<i>thəə, lôn</i> : No.145 <i>kɛɛ</i> : No.144, 145

143	あなた達	phûak khun, phûak thəə, phûak lòn, phûak raw	×	×	○	○	phûak thəə, phûak lòn : No.147
144	彼	kháw, kɛɛ, man, naaŋ, ʔii	×	×	×	×	kɛɛ : No.142
145	彼女	kháw, thəə, lòn, kɛɛ, man, naaŋ, ʔii	×	×	×	×	thəə, lòn, kɛɛ : No.142
146	彼ら	phûak kháw	×	×	×	×	
147	彼女ら	phûak kháw, phûak thəə, phûak lòn	×	×	×	×	phûak thəə, phûak lòn : No.143

最後に人称代名詞についてであるが、敬称として使用されるものやその表現が複数の種類の人称として使用されるものなど、特徴的な表現について述べる。同一の表現が異なる人称で使用されているものについては、備考欄に該当する No. を記載している。

nũu は若い女性や性別を問わず子供全体を指して自称、対称、呼びかけで使用できる他、発話者と対話者両方での敬称としても使用する。そのため、No.139「私」と No.142「あなた」に対応する表現として表 18 中に示している。親族名称等は自称においても敬称として使用されるが、人称代名詞の中で自称としての敬称用法があるのは、この nũu のみとなる。raw は自称の単数と複数で使用されるが、複数であることを明確に示すためには接辞 phûak を付加する。タイ語では対話者を含む場合も、含まない場合も同一表現を用いるため、No.140「私達(包括形)」と No.141「私達(除外形)」は同一表現となる。この raw 及び複数を表す接辞を伴う phûak raw は自称だけでなく、対称と呼びかけでも使用されるため、No.142「あなた」と No.143「あなた達」にもそれぞれ該当する。

対話者への敬意を示すため、対称及び敬称として使用する表現には、No.142 の thâan と khun があり、thâan の方がより高い敬意を示す。この thâan と khun は、人名だけでなく、「学長」ʔathikaan などの役職名称や「医者」mǎo などの職業名称の前に付加することもできる。câw も対称や呼びかけで使用するとともに、人名の前に付加する敬称としても使用できるが、thâan や khun のように役職名称や職業名称の前に付加することはない。No.142「あなた」と No.145「彼女」の両方で使用可能な表現として thəə と lòn があり、複数であることを示す接辞 phûak を各表現に付加した phûak thəə と phûak lòn となると、No.143「あなた達」と No.147「彼女ら」の両方に該当することとなる。kɛɛ は対称及び他称・男性と他称・女性で使用されるため、No.142「あなた」、No.144「彼」、No.145「彼女」に該当する表現となる。

III. まとめ、今後の展望

本調査で各用法への適用概況を示したものが表 19 となる。使用可能な用法の組み合

わけパターン別に、カテゴリ毎に該当する項目数を示している。本稿で一定の条件・文脈の下で使用する特殊ケースでの適用は「△」としているが、特定の条件・文脈では使用できることから、ここでは全体の傾向を見るため、表 19 では「△」も「○」として集計している。なお、カテゴリ名の後の括弧内の数字は調査項目数となる。

表 19：共通調査項目カテゴリ分類

			○	○	○			○	×
敬称			○	○	○			○	×
自称		○	○			○	○	○	×
対称	○	○	○	○			○		×
呼びかけ	○	○	○	○					×
Age (7)	7								
Family (27)	6	8	8						5
Fictional Family (27)	7		15						5
Education (6)	3		1	2					
Relationship (10)	5	2	1						2
Position (7)				6	1				
Service (8)	3	3	1						1
Spiritual (4)					1				3
Royal (5)	1								4
Anaphor (2)		1					1		
Quantifier (3)		3							
Demonstrative (9)	1	1							7
Proper Name (7)	3	3			1				
Modified Noun Phrase (13)	7	5				1			
Miscellaneous (3)	1			1					1
Personal Pronoun (9)	1			1		2		1	4
計(147)	45	26	26	10	3	3	1	1	32

表 19 が示す事象の 1 つとして、呼びかけとして使用可能な表現は、必ず対称としても使用可能であるのに対して、呼びかけのみに使用できる表現は今回の調査結果では確認できていないということが挙げられる。加えて、対称には使用されず自称と呼びかけのみ、または敬称と呼びかけのみというパターンとなる表現についても、今回の調査項目では見つからず、代名詞代用表現の用法の中でも対称と呼びかけの関係性が非常に強いことを示唆する結果であった。

また、「Family」カテゴリにある親族名称は、実際の親族に敬称として使用できる表現は 8 項目であったが、それが「Fictional Family」カテゴリでは 15 項目と約 2 倍となっている。実際の親族ではその表現が指し示す人物が 1 名だけである親族名称は敬称として使用することはないが、虚構用法では誰であるかを特定するため、人名も付加する必要があることによるものと考えられる。タイ語の人称表現においては、対話者との親

疎を表す水平的ポライトネスだけでなく、対話者との上下関係を表す垂直的ポライトネスを示すことが求められるが(ウィッタヤーパンヤーノン、富盛 2020)、多くの親族名称がその機能を担っていることが推測できる。

今回の調査を通し、タイ語では代名詞代用表現及び呼びかけ表現の使用においては、文脈、場面、発話者と対話者の力関係や上下関係の影響を強く受ける事象の他、親族名称が虚構用法では使用できる幅が実際の親族より広いことや虚構用法の変化など、親族名称の複雑な仕組み・状況が明らかになった。一方、*phii*「兄・姉」などのようにタイ語では代名詞代用表現として使用頻度が高い表現が今回の共通調査項目には含まれていなかったことも、今後分析を行っていく際は考慮していかなくてはならない。他にも No.74&75 と No.107 で見られたようにタイ語母語話者間で見解が異なる点の要因の分析も必要であろう。

Iwasaki and Ingkaphirom(2009)をはじめとした先行研究の中で、タイ語の人称表現については人称代名詞に焦点が当てられる傾向であったが、特に垂直的ポライトネスを適切に示すためには、人称代名詞だけでは十分ではなく、普通名詞や固有名、敬称(タイトル) *khamnamnâanaam* の組み合わせから成る代名詞代用表現も含めた運用がタイ語では必要となり、今後、代名詞代用表現の特性を明らかにしていくことが求められる。代名詞代用表現の研究は、McCready (2019) や野元(2019)¹⁰により通言語的に適用可能な理論的分析が始まったばかりであり、本稿で行ったような個別言語としての検証を進めていくとともに、今回実施した 8 言語の共通調査結果から協同研究として通言語学的・類型論的な考察を進めていくことで、工学的応用研究・開発や言語教育など多方面の領域に資する言語資源の構築へ資するものとしていきたい。

注

¹ 科学研究費補助金基盤研究(B)2020-2024 年 JP20H01255 「代名詞代用・呼びかけ表現の通言語学的研究」(研究代表者：スニサー ウィッタヤーパンヤーノン(齋藤))

² 日本語、朝鮮語、マレー語、インドネシア語、ジャワ語、タイ語、ベトナム語、ビルマ語

³ Okano, Kenji, Hiroki Nomoto, Sunisa Wittayapanyanon and Atsushi Kasuga. 準備中. A common questionnaire for investigating pronoun substitutes and address terms. https://github.com/matbahasa/ProSub/blob/main/common_questionnaire.tsv

⁴ TV 番組として Thai PBS のドラマ“*bǎ̌orisàt bambàt nîi*”、小説は“*khûu kam 2*”となる。

⁵ Acknowledgements : I'd like to express my gratitude to Assoc. Prof. Dr. Nitaya Kanchanawan, Office of Royal Society of Thailand, PhD. Phornrat Tiranant, Director of Asia Pacific Language

(Thai), Ritsumeikan Asia Pacific University, Mrs. Suthasinee Yoshii, Mrs. Wimonwan Wilawanjit, Ms.Nantanat Wilawanjit and Mr.Tanupat Wilawanjit who gave me valuable advice for writing this paper.

- ⁶ sǎaw や nùm というニックネームの人はいる。
- ⁷ 発話者が対話者の女性のことを幼い頃から知っているような場合は、女性が 20 代後半でも sǎawnóoy を使用することはある。
- ⁸ Royal Thai Government Gazette 136 に準じる。
- ⁹ 週刊新聞 máitchon sùtsápdaa(2001 年 3 月 26 日) 内のコラム mǎəŋ thai mǎy への Assoc. Prof. Dr. Nitaya Kanchanawan, Office of Royal Society of Thailand の寄稿内容より。
- ¹⁰ McReady(2019)は英語、日本語、タイ語、野元(2019)では日本語、マレー語、インドネシア語を扱う。

参考文献

- ウィッタヤーパンヤーノン(齋藤) スニサー. 2020. 「タイ語での代名詞代用表現・呼びかけ表現に関する考察」『東京外大 東南アジア学 第 22 巻』. pp.1-23.
- ウィッタヤーパンヤーノン(齋藤) スニサー. 2019a. 「タイ語での一人称表現の使用意識とタイ語教育への活用」『外国語教育研究 外国語教育学会紀要 No.22』. pp.99-117.
- ウィッタヤーパンヤーノン(齋藤) スニサー. 2019b. 「タイ語での二人称表現の使用意識とタイ語教育の課題」『東京外国語大学論集 No.99』.pp.173-191.
- ウィッタヤーパンヤーノン スニサー. 2015. 「日本人タイ語学習者の発音問題と指導方法に関する一考察」『東京外大 東南アジア学 第 20 巻』. pp.37-55.
- ウィッタヤーパンヤーノン(齋藤) スニサー、富盛 伸夫. 2020. 「タイ語教育における社会文化的適切性と CEFR への適用 —ポライトネス理論の視点から見た人称詞・呼称表現を中心に—」『外国語教育研究 外国語教育学会紀要 No.23』. pp.96-114.
- 野元裕樹. 2019. 「代名詞代用語の意味論」日本言語学会『日本語言語学会大会予稿集. 第 159 回』. pp.486-492.
- 野元裕樹、ウィッタヤーパンヤーノン(齋藤) スニサー、岡野賢二、トゥザライン、南潤珍、スリ・ブディ・レスタリ. 2021. 「代名詞代用・呼びかけ表現研究の現状：タイ語、ビルマ語、マレー語、インドネシア語、ジャワ語、朝鮮語」東京外国語大学語学研究所『語学研究所論集 第 25 号』. pp.63-78.

- Changkhwanyuen, Wanlaya. 2006. *Banthatthan Phasathai* บรรทัดฐานภาษาไทย, No.2. Bangkok. Ministry of Education
- Iwasaki, Shoichi and Ingkaphirom, Preeya. 2009. *A Reference Grammar of Thai*. Cambridge. Cambridge University Press.
- McCready, Elin. 2019. *The Semantics and Pragmatics of Honorification: Register and Social Meaning*. Oxford: Oxford University Press.
- Nomoto, Hiroki, Okano, Kenji, Wittayapanyanon, Sunisa and Nomura, Junta. 2019. “Interpersonal meaning annotation for Asian language corpora: The case of TUFSA Asian Language Parallel Corpus (TALPCo).” *Proceedings of the Twenty-Fifth Annual Meeting of the Association for Natural Language Processing* : 846-849.
- Prasithratsint, Amara. 1981. “Some Significant Socio-cultural Characteristics as Evidenced in the Use of Kinship Terms in Thai Term Paper.” *Linguistics* 414. University of Hawaii.
- thommayantrii ทมยันตี. 1991. *khûu kam 2* คู่กรรม2. Bangkok: ná? bâan wannakam ณ บ้านวรรณกรรม.
- rôotsáp, naronkan รอดทรัพย์, ณรงค์กรณ. 2008. “Address Terms in Deravadh Buddhist Domain.” *HCU.Journal* 22: 12-27.
- The Royal Institute Dictionary* พจนานุกรม ฉบับราชบัณฑิตยสถาน. 2011. Bangkok: Royal Society of Thailand.